



平成 18 年 6 月 23 日

各 位

富山県富山市清水元町 7 番 8 号
エヌアイシ・オートテック株式会社
代表取締役社長 西川 浩司
(コード番号：5742)

問い合わせ先 経営企画室長 光用 勝也
TEL 03-5530-8066

平成 18 年 3 月期実績見込及び平成 19 年 3 月期の業績予想について

平成 18 年 3 月期 (平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日) における当社の実績見込及び平成 19 年 3 月期 (平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日) における当社の業績予想は、次のとおりであります。

【通期・単体】

(単位：百万円、%)

| 項目 | 平成 19 年 3 月期(予想) | | | 平成 18 年 3 月期(実績見込) | | | 平成 17 年 3 月期(実績) | |
|-----------------------|------------------|-------|-------|--------------------|-------|-------|------------------|-------|
| | | 構成比 | 前年比 | | 構成比 | 前年比 | | 構成比 |
| 売上高 | 6,232 | 100.0 | 131.8 | 4,730 | 100.0 | 82.2 | 5,757 | 100.0 |
| 経常利益 | 385 | 6.2 | 104.0 | 370 | 7.8 | 122.7 | 302 | 5.2 |
| 当期純利益 | 231 | 3.7 | 104.2 | 221 | 4.7 | 141.1 | 157 | 2.7 |
| 1 株 当 たり 当 期 純 利 益 | 4,204.72 円 | | | 4,438.58 円 | | | 3,145.09 円 | |
| 1 株 当 たり 配 当 金 | 750 円 | | | 750 円 | | | 750 円 | |

- (注) 1. 当社は重要な子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。
2. 平成 17 年 3 月期 (実績) 及び平成 18 年 3 月期 (実績見込) の 1 株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。
3. 平成 19 年 3 月期 (予想) の 1 株当たり当期純利益は、公募予定株式数 (5,000 株) を含めた期末予定発行済株式数 55,000 株により算出しております。
4. 平成 18 年 3 月期 (実績見込) 及び平成 19 年 3 月期 (予想) の 1 株当たり当期純利益の算定に際し、役員賞与金等、普通株主に帰属しない金額は、予想当期純利益より控除しておりません。

ご注意： この文書は記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。
投資を行う際は、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(並びに訂正事項分) をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いします。

【平成18年3月期（実績見込）の主な変動要因】

当事業年度におけるわが国の経済は、多くの企業が好業績を背景に更なる成長を見通した積極的な設備投資が持続しており、自動車産業、IT関連産業等の生産水準の上昇など、景気回復の広がりがみられました。

部門別売上高実績見込は次のとおりであります。

| | |
|------------|-----------|
| アルファフレーム部門 | 1,804 百万円 |
| 装置部門 | 1,443 百万円 |
| 商事部門 | 1,482 百万円 |
| 合計 | 4,730 百万円 |

なお、当事業年度は前年同期に比べ、売上高が82.2%の見込みとなっておりますが、これは前事業年度の商事部門におきまして、国内外向け大型機械設備投資案件を受注し、売上高が増大してはおりますが、当事業年度においてはこのような大型機械設備投資案件が発生しなかったことによります。

当事業年度における部門別の販売概況は次のとおりであります。

アルファフレーム部門は、一部大口ユーザーからの需要が前事業年度下半期より減少しましたが、概ね液晶、半導体関連、自動車関連からの需要は順調に増加いたしました。このような状況の中で当部門における売上高は1,804百万円（前年同期比111.6%）となる見込みです。

装置部門は、前事業年度から好調な次世代フラットパネルディスプレイ（以下「FPD」という。）製造設備用クリーンブースと自動車部品用洗浄・計測設備が当事業年度も活発な設備投資を背景に継続受注いたしました。特に自動車産業では、経済性と環境保全に対応した低燃費車やハイブリット車の普及に拍車がかかり、当該エンジン部品の洗浄・計測装置の受注が高水準を保っております。同じく自動車産業向けのお客様の仕様に合わせた製品も前年同期を大きく上回る売上で推移しております。このような状況の中で当部門における売上高は1,443百万円（前年同期比122.8%）となる見込みです。

商事部門は、昨年受注した大型設備投資案件が前事業年度にて一段落し、当事業年度は景気回復に伴う一般機械設備や消耗品の需要増加を確実に受注に結びつけるよう営業活動を展開いたしました。その結果、軸受組立機、大型精密測定機、マシニングセンター等の一般設備、工業用砥石等の消耗品及び自社製品（アルファフレーム等）の売上は順調に推移し、当部門の売上高は1,482百万円（前年同期比50.6%）となる見込みです。

以上の結果により、当社事業全体としましては売上高4,730百万円（前年同期比17.8%減）、経常利益370百万円（前年同期比22.7%増）及び当期純利益221百万円（前年同期比41.1%増）となる見込みであります。

ご注意： この文書は記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。
投資を行う際は、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（並びに訂正事項分）
をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いします。

【平成19年3月期（業績予想）の前提条件】

引き続き自動車関連分野やFPD関連分野の好調に支えられた活発な設備投資の波に乗り伸張するものと予想しております。また自動車関連分野における海外設備拡張が見込まれております。

（売上高）

アルファフレーム部門は各主要代理店からのヒアリング結果を受け、好調な設備投資が見込まれております。大口顧客の確保に成功しており、継続的な受注が見込まれております。

装置部門についてはリピート比率の高い洗浄・計測装置での受注、引き合いが順調に推移する見込みです。またカスタムクリーンブースもFPD関連を中心に受注、引き合いが順調に推移する見込みです。

商事部門は自動車関連分野における海外設備投資の大口案件が見込まれております。

以上の結果により、当社事業全体としましては売上高6,232百万円（前年同期比31.8%増）を予想しております。

（売上総利益）

アルファフレーム部門については平成18年3月期当初から生産側のコスト削減（アルファフレーム補助部品の材料費低減等）に努めてまいりました。また外注先への発注単価の引下げ交渉を開始し、その後順次引下げ効果が出てまいりました。平成19年3月期においてはコスト削減効果の水準が維持できるとみております。

アルミ地金価格は上昇傾向を辿ってきておりますが、コスト削減効果もあり、価格上昇の影響は少ない状況に留めることが可能と認識しております。

装置部門についてはリピート比率の高い洗浄・計測装置での受注、引き合いが順調に推移する見込みであり、値下げ圧力が強い中でも利益率の確保、伸長が可能と認識しております。

商事部門については大口案件による利益率の低下を見込んでおりますが、売上高の伸長により利益額を確保、拡大できる見込みです。

以上の結果により、当社事業全体の売上総利益1,423百万円（前年同期比11.5%増）を予想しております。

（販売費及び一般管理費）

業績の拡大にともなう経費の増加に加え、技術開発センター等の大型設備投資による償却負担増加等により1,032百万円（前年同期比12.6%増）を見込んでおります。

（営業外損益）

新株発行費用として8百万円を見込んでおります。

以上の結果により、当社事業全体の経常利益385百万円（前年同期比4.0%増）、当期純利益231百万円（前年同期比4.2%増）を予想しております。

以 上

ご注意： この文書は記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。
投資を行う際は、必ず当社が作成する「新株発行並びに株式売出届出目論見書」（並びに訂正事項分）
をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いします。